

## ウクライナ問題に揺れた MET の「トゥーランドット」

藤原 道夫

先日映画館で MET ライブビューイング「トゥーランドット」をみた。さすがに MET だ、歌手陣と豪華な舞台装置は圧巻だった。とは言え、今回の公演には時代の波が如実に表れていた。

MET オペラ 2021~2022 シーズンの演目に「トゥーランドット」が組み入れられ、タイトルロールを看板歌手アンナ・ネトレプコが歌うことになっていた。この案が何時頃決められたか、憶測するしかないが 2020 年末には固まっていたであろう。シーズンは 2021 年 10 月オミクロン株が跋扈する中で幕開けを迎えた。開演にこぎつけただけでも関係者の努力は並大抵ではなかったろう。年を越してロシアによるウクライナ侵攻が始まった。ロシア人であるネトレプコの立場が問題となる。彼女は MET のロシアに対する抗議文に署名しなかったようで、舞台に立って歌える状況ではなくなった。映画館で配られた進行表に「当初トゥーランドット役で出演予定だったアンナ・ネトレプコが降板し、リュドミラ・モナスティルスが代役を努めています。ご了承ください」とあった。代役はウクライナ人で、ミラノのスカラ座でもトゥーランドット役を演じた実績がある。録画されたのは 5 月 7 日、よく間に合ったものだ。

オペラが始まる前に、大きなウクライナ国旗が舞台のカーテン前に掲げられ、ウクライナ国歌が斉唱された。

オペラはゼフィレリによる演出、舞台装置は大掛かりだし多数の登場人物一人一人の衣装が入念に作られている。タイトルロールの王姫役モナスティルスは、堂々とした体躯からメリハリのある深い歌声を出していた。歌い終わる度に万雷の拍手にブラボーの嵐、ウクライナへの同情も加わったか？王子カラフ役ヨンファン・リーは命がけで王姫に求婚する。彼もまた素晴らしい歌唱力で、アリア「誰も寝てはならぬ *Nessun dorma*」を歌い終わるや、盛んにブラボーが飛んだ。

オペラが公演された 5 月、ニューヨークではオミクロン株の流行が収まっていなかったはずだ。それでもマスクをしている観客は多くないし、大声も出ていた。ちなみに日本の劇場では、入場時に体温測定と手の消毒が行われる。場内ではマスク着用が義務づけられ、大声はもとより会話も控えるように要請される。こんな所に国柄の違いがはっきり出ている。